

浅間山北麓ジオパーク 運営委員
高山蝶を守る会 会長 松本 智之 氏

電機関係の会社に就職し、営業として国内外を飛び回る多忙な日々を過ごしておりましたが、40代後半になって旅行に目覚め海外を含め時間を見つけては旅行に行くようになりました。ドライブが一番の趣味なので、国内は殆ど車で回りました。最近でも月に2,000~3,000km、多いときは5,000km走ります。20代の頃から軽井沢が好きで、良くこの周辺には来ていたので、62歳で会社を退職した時、日本中を車で走るのに良い拠点となり、どこに行くにもアクセスの良いここ嬭恋村に移住することを即決しました。旅行において自然に接することが一番の条件なので、百名山巡りをしていましたが百名山のバッジがあることを知り、改めて百名山登山を開始し、全バッジを現役中に獲得しました。その達成感に魅了され、移住後、最初に全国灯台巡りを始め、難なく達成しました。そして現在、滝巡りが残すところ1か所となり、次の湿原巡りを敢行中です。その後は湖巡りを検討しています。自然と密接に向き合うほどに、貴重な動植物が急ピッチで減少し絶滅の危機に瀕していることを肌で感じるようになりました。そこで、浅間山北麓ジオパークの認定準備から参画し、同推進協議会の調査保全委員会の副委員長として、またガイドの会の一員として活動すると共に、高山蝶、レンゲツツジ、熔岩樹型の保護活動、外来種駆除、草津森林ボランティア等に参加しています。これからも、微力ながら貴重な自然を保全しつつ有効に生かしていく活動に尽力していきたいと考えております。



NPO法人 日本チョウ類保全協会
松村 行栄 氏
“浅間山に舞うチョウ”

浅間山系は昔から高山蝶の宝庫として有名です。ミヤマシロチョウ、ミヤマモンキチョウ、ベニヒカゲの3種が生息しています。特に湯の丸山のミヤマシロチョウは、全国で絶滅産地が増え数カ所しか残っていない生息地の一つで、国内唯一、誰でもが身近に観察できる場所です。「嬭恋村高山蝶を守る会」の方々が環境整備、調査を継続されていることはご存じのことと思います。

今回はもう一種の重要な浅間山系のチョウを紹介いたします。コヒョウモンモドキで、国内希少野生動植物種に追加されました(2023年5月11日施行)。ひとまわり大きなヒョウモンモドキも新鹿沢温泉付近に生息していたのですが既に絶滅し、全国的には97.8%の生息地で絶滅してしまいました。嬭恋村に生息していたオオウラギンヒョウモンも既に絶滅してしまいました。同じように絶滅が危惧されるのがコヒョウモンモドキです。以前は栈敷林道などでもよく見られたのですが、食草のクガイソウが鹿に食べられ非常に数が減ってしまいました。全国的にも絶滅産地が増え、浅間山系がまた、重要な生息地になっています。早急に保全の検討が必要になりそうです。

浅間山系(嬭恋村)はこのように全国的に見ても重要なチョウの生息地です。“浅間山に舞うチョウ”、いつまでも同じように見られるよう皆様のご協力を御願いたします。



コヒョウモンモドキ

特集：浅間山北麓に舞う蝶

地域の成り立ちから、地球の成り立ちを知る

SDGs x ASAMA



ミヤマシロチョウ

浅間山北麓では、7月から8月にかけて多くの蝶が見られます。身近にみられる蝶から、高山蝶や長い旅をする珍しい蝶を紹介します。

ジオパークからのお知らせ



アンケートの回答はこちら

7月・8月のイベント情報！

7月6日(木)・7月17(月・祝)	スカイロケットレイルモニターツアー ※6日は嬭恋村民・長野原町民限定
7月29日(土)~8月20日(日)の土日	浅間牧場周回遊歩道ジオツアー
8月5日(土)	鎌原観音堂 供養祭
8月22日(火)【未定】	ジオの日イベント

発行：浅間山ジオパーク推進協議会

Mt. Asama Geopark Promotion Council
制作担当：広報・観光委員会

〒377-1524 群馬県吾妻郡嬭恋村大字鎌原494-45
TEL/FAX：0279-82-5566
URL：www.mtasama.com
E-mail：info@mtasama2568.xsrv.jp
Facebook：www.facebook.com/asamageopark
Twitter：https://twitter.com/home

ガイドの受付しています

「浅間山北麓ジオパークガイドの会」の認定ガイドによる案内の受付をしております。ご希望の方は、左記、推進協議会事務局までお申し込みください。

【料金】*ガイド1名あたりの値段
平地：半日6,000円 1日12,000円(参加者11名以上はガイド2名)
軽登山：半日10,000円 1日15,000円(参加者8名以上ガイド2名)
登山：1日25,000円(参加者8名以上ガイド2名)

編集後記

早いものであさまびとも25号まで発行されました。今後もよりよい物を作成していきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。また、QRコードからアンケートのご回答をお願いします。

深い山に棲む“高山蝶”

ミヤマシロチョウ、ミヤマモンキチョウ、ベニヒカゲは、群馬県の天然記念物に指定されている3種の蝶で年々その数を減らしてきています。特にミヤマシロチョウはここ浅間山周辺から姿を消すと、日本では見られなくなるほど、他地域では絶滅もしくは激減しており、環境省と群馬県では、絶滅危惧類に指定されています。



ミヤマシロチョウ

夏に湯の丸など高い山で白い翅(はね)を広げて美しく舞います。幼虫はトゲのあるメギの葉を食べ、集団で巣を作り育つ珍しい蝶です。



ミヤマモンキチョウ

高い浅間山、四阿山、白根山周辺でピンクの縁取りのある黄色い翅が特徴です。幼虫はクロマメノキの葉を食べて大きくなります。



ベニヒカゲ

湯の丸周辺で8月に飛ぶ姿が見られます。茶褐色の翅にオレンジ色の斑紋があります。幼虫はイワノガリヤス(イネ科)を食べます。

身近な存在の“蝶”



オオムラサキ

国蝶であり、雑木林に棲む大きなタテハチョウ。翅の裏面は黄白色～灰白色、表面は黒褐色地に白～黄色の斑紋があり、オスは青紫色に輝きます。



クジャクチョウ

鮮やかな赤色で、孔雀の翅模様似た大きな眼状紋があるタテハチョウ。北海道では山地・平地で広く見られ、本州では山地で見られます。



キアゲハ

その名のとおり、やや黄色っぽいアゲハチョウ。前翅の付け根が黒くなっていることで、普通のアゲハと見分けることができます(普通のアゲハでは縞模様になっている)。



ツマグロヒョウモン

野原や公園などに広く生息。もともと南方系のチョウ。幼虫がパンジーなどスミレ類を広く食べることから園芸植物にまぎれて広がりました。

“アサギマダラ”マーキング in 嬬恋2022

吾妻町村連携講座
アサギマダラ観察会&マーキング体験【8.24】

マーキング調査
～その後～

8月24日(水)
パルコルスキー場ゲレンデ内
標高H=1860m
天候 曇り 標識40頭

①10月19日(水) 57日目
静岡県掛川市満水一色
標高H=50m
標識番号TP30 移動距離L=201.5km

②10月27日(木) 64日目
鹿児島県奄美大島龍郷町
標高H=226m
標識番号TP36 移動距離L=1227.6km

▲アサギマダラにマーキングをしている様子

アサギマダラは日本で唯一「渡り」をする謎の多い蝶です。夏場は北東に冬場は南西に移動し、その距離最長2000キロにも及ぶそうです。旅する理由は諸説ありますが、生息できる気温の幅が狭いためとも言われています。その謎を解明するため、日本各地で調査が行われています。



D. 湯の丸エリア 鹿沢園地

上信越高原国立公園内に位置し、「清流の小径」、「かえでの小径」という2つの自然学習歩道と、野草園、インフォメーションセンター、などからなる園地です。鹿沢園地内の各エリアは変化に富み、動植物も多様です。特に、野草園の植物の種類数は多く、気軽に野草と触れ合うことができます。全長1.6kmの「清流の小径」は、湧水川をところどころ



ころ渡りながら森の奥へと進む小径で、溪流沿いの自然を見ることができ、全長1.4kmの「かえでの小径」は、湧水川と湯尻川という2つの溪流に沿いながら森の中を進む小径で、自然林の様子を観察できます。併せて「鹿沢園地自然学習歩道」として整備されています。

ちよこつと豆知識

“高山蝶を守る会”の概要と活動について

湯の丸高原に生息している高山蝶ミヤマシロチョウなどの日本で絶滅が心配されている蝶の保護・保全活動をしています。その食樹であるメギを含め、①生息状況の調査 ②食草及び食樹の育成 ③周辺の環境整備(雑木の除去) ④捕獲禁止の指導 ⑤観察会などを通して、多様性のある自然を次世代に継承できるように取り組んでいます。

